アントレミツハシ社長◆アトリエ移転

コロナでコンパクト化

アトリエに飾られた、モロッコの印象を描いた自作の絵画と三橋社長

【東京】利用運送事業、不動産業、人材派遣業を手掛けるアントレミツハシ（旧ミツハシ運輸梱包サービス、東京都目黒区）の三橋清枝社長は、地域交流・情報発信の拠点として開設した「アトリエ・ウィズユーリビング」を、目黒区学芸大学から同区の自由が丘駅前に移転し、地域活動を続けている。

アトリエは、三橋氏が立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科在学中に研究テーマとしていた地域活性化を具現化するため、2017年3月に学芸大学駅から徒歩10分の閑静な住宅街にオープン。絵画教室や落語会、セミナーなどの会場として地域住民に利用されてきた。

新型コロナウイルス禍で人が多く集まるイベントの開催が難しくなったことから、駅に近い立地に移してコンパクト化することを決め、20年9月に自由が丘駅前に移転。移転前のアトリエに引き続き、目黒区社会福祉協議会（辰巳ヒロミ会長）めぐろボランティア・区民活動センターとのタイアップによる「居場所（サロン）づくり」の拠点としても認められている。

新アトリエでは絵画教室や俳句会のほか、東京版お遍路コースと言われる「御府内八十八ヶ所巡り」など、新たな地域イベントも開催中。毎月1回、エリアを決めて参加者5、6人を募り、様々な宗旨・宗派の寺院など5～7カ所を訪れている。

東京版お遍路 地域イベント開催

三橋氏はコロナ禍以前の20年2月に旅したモロッコで、過酷な環境で生活する人々と、その生活の中から生まれたイスラム文化や、日本人と大きく異なる価値観に触れた。そして、地域活動や人材派遣業に当たって、様々な主義、信条、信仰を受け入れる必要性を実感。高野山大学大学院通信教育課程で「現代の地域社会における慈悲と喜捨」をテーマに学ぶなどした。そうした経験が、御府内八十八ヶ所巡りといった新たなイベントにもつながっている。

新アトリエは自社のサテライトオフィスとしても活用。4代目経営者候補となる娘も入社し、運行管理者やキャリアコンサルタント、不動産管理に必要な防災士の資格取得に向け勉強中だ。

三橋氏は「当社も実運送から利用運送、不動産、人材派遣と業態を変えながらも、社歴を継続している。コロナ禍だからこそ、会社経営においても、大切なものは何かを見つめ直す時期に来ている。自社に必要な人材を育て、環境の変化に対応しながら、100年企業を目指す」と話している。

（吉田英行）